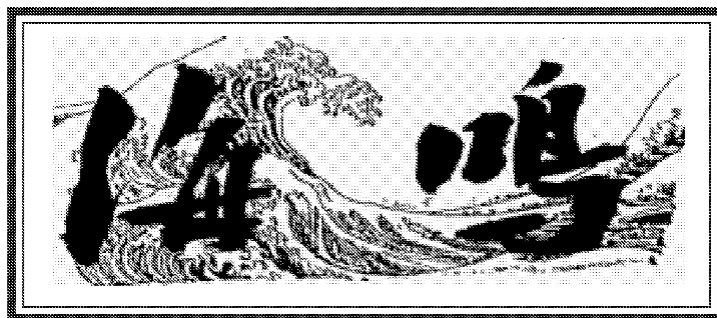




学長選考を考える (第 8 報)

学長選考・監察会議・三輪正明議長(北越コーポレーション株式会社・代表取締役社長)の回答(3月31日)は、「より詳細な議事録の作成、公開、及び投票結果の票数の公開を行う予定はありません」として、教育学部、人文学部の教授会の要請を全面的に拒否しました。「説明できないことをしてしまつた」と自ら白状しているとも読めます。今号には、この回答に先立つ形で発表された教職員有志の声明(3月27日)を掲載します。説明責任の放棄、公文書管理法の問題が指摘されています。ご検討頂き、ご意見をお寄せください。

声明文

私たちは

説明を求め続けます

学長選考・監察会議委員各位

でした。その後人文学部・教育学部教授会より再度、再々度の要望が出されましたが、無回答のまま年度末を迎えようとしています。

開始しました。この経験を重視しなくてはなりません。本学には、千葉大学とは異なり、秘匿しなければならぬ特殊な事情があるのでしょうか。それは一体、どのような事情なのでしょう。

2025年9月25日に開催された学長選考・監察会議において、8月に実施された教職員による意向投票では大差で2位となった候補者が、1位の候補者を抑えて選出されました。そのことを少なくない新潟大学教職員が驚きをもって受け止めました。その後様々な機会に有志声明、学部教授会決議、職員組合の集会決議などによって、選出経緯の詳細な説明を求める要望が表明されましたが、2025年11月26日付、および2026年2月4日付で公表された三輪正明議長による説明は、5時間半に及んだ選考会議での委員の意見の抜粋に過ぎず、3回行われた投票の各候補者の票数も示さない極めて不十分なもの

三輪議長は、議事録や投票の票数を公開することが、「事実上反する推測を助長する」「候補者の評価や名誉に不当な影響を及ぼすおそれや、今後の円滑な大学運営への悪影響が懸念」等と述べておられますが、これは全く正反對の説明です。学長選考・監察会議が詳細な経緯の説明を頑なに拒否すること自体が、「何か秘匿したいことがあるのではないか」等の憶測や懸念を新潟大学内外で生じさせ、既に発足した新学長の下での、教職員の一致団結した協力体制を阻害しているというところに、気づいていただきたいと思っています。2024年1月に新潟大学と同様の問題が起きた千葉大学では、3月に選考会議の議事録と選考委員による各候補者の得票数を公開した結果、円滑な大学運営が

意図投票と学長選考・監察会議の結果が齟齬することは、これまでいくつかの国立大学法人で起こり、2021年の改正国立大学法人法により、意向投票の結果に拘らず学長選考・監察会議の決定が正式決定となります。しかし本件は倍以上の票差が覆るといふ全国的に見ても前例のない極めて異例の事態であり、学内のみならず地域社会ひいては全国から大きな関心をもって注視されています。国民的関心事となる重要事項につき「議事録作成はしない」と学長選考に関わる議長が言明することとは、国立大学法人新潟大学として、国民に対する説明責任の放棄であると同時に、公文書管理法、すなわち「国及び独立行政法人等の諸活動や歴史的事実の

記録である公文書等が、健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源として、主権者である国民が主体的に利用し得るものであることにかんがみ、国民主権の理念のつとり、公文書等の管理に関する基本的事項を定め」た公文書管理法の理念、及び条文に違反する恐れすらあることにも、思いをいたすべきです。

このたび学長選考・監察会議のうち半数を占める学外委員の任期が終了し、学内委員の一部も交代するにあたり、皆様の任期終了後もなお、2025年9月25日の学長選考・監察会議の内容につき説明責任を負い続けていることを、銘心していただきたいと思います。私たちは、今後も説明を求めてまいります。

2026年3月27日

新潟大学教職員有志

栗生田忠雄(農学部)
岡野 勉(教育学部)
小林繁子(教育学部)
小西博巳(理学部)
酒匂宏樹(工学部)
園田浩司(人文学部)
原 直史(人文学部)
福嶋康夫(工学部)
藤石貴代(人文学部)
逸見龍生(人文学部)
松井克浩(人文学部)
山田祐紀(人文学部)